（別紙3）

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所　カラフル			
○保護者評価実施期間	2026年5月8日		～	2026年5月18日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	43	（回答者数）	26
○従業者評価実施期間	2026年5月8日		～	2026年5月18日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月18日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラミングやマインクラフトといったデジタルツールを活用した活動 楽しみながら、問題解決力や創造力、協働する力を育む 自分の得意や好きなことを見つけ、自己肯定感を高めるプログラムを実施	プログラミング、イラスト、動画編集、お菓子作りなど多岐にわたるプログラムを用意し、スキを発見する工夫を取り入れている それぞれのレベルに合わせた支援の取り組みや、スモールステップで学べる仕組みを導入	より未来につながる学びを子どもたちに届けることを目指す デジタル教材や教育ツールの充実化を図り、発達段階や興味に応じた個別プログラムを模索 プログラミング検定やパソコン検定（P検）など、スキルを「形」として残せる仕組みを取り入れ、子どもたちが「将来につながる学び」を実感できるようにしていく
2	デジタルツールを積極的に活用し、保護者と連携しやすい環境を整え「安心」「納得」「信頼」の提供に尽力	一日の様子を「見える化」するため、写真や動画を積極的に共有 活動報告以上の「成長の実感」を得られるように配慮 公式LINEの活用で、連絡系統の簡素化	保護者と双方向に情報をやり取りできる体制の整備 例）公式LINE：定期的にミニアンケートや相談フォームの設置し、保護者の声を日常的に反映させる仕組みを強化など 「預ける場」から「共に育つ場」へと進化する支援体制の構築を目指す
3	多彩なプログラム 長期休暇中や土曜日のイベントでは、子どもたちの興味・関心に合わせて工作、実験、ゲーム、体験学習、発表会など多彩なプログラムを準備 これにより、好奇心を刺激しながら、普段の活動では得にくい体験を提供	毎回「クッキング」「制作」「おでかけ」などテーマを設定し、それに沿ったプログラムを展開 子どもたちが一日を通じ、「体験と実績」を得られる様に都度検討	現在のテーマに加え、地域連携型（地域の施設や公共施設を使う体験）、専門家招聘型（科学者、アーティスト、講師を招いたワークショップ）を導入し、さらに拡張をはかる

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・関係各所との連携 相談支援事業所や学校等の関係機関との情報共有は、現状では保護者を介した間接的なやり取りが中心となっており、直接的な連絡・会議の機会が少ない。連携記録の様式や頻度について、組織的な仕組みが整備されていない点が課題である。	開設以来、日々の支援運営に注力してきた結果、地域の相談支援事業所や医療・教育機関への挨拶・関係構築が後回しになってきた。顔の見える関係が構築されていないことが、連携の希薄さの根本的な要因である。	まず地域の相談支援事業所を中心に訪問挨拶を行い、事業所の存在と特徴を知っていただくことから始める。訪問記録を蓄積しながら、継続的な関係構築へとつなげていく。
2	保護者同士の交流機会の少なさ	プライオリティの低さ	保護者会や参観日などを設け交流の機会の創出が必要